



# 栄中だより

栄中開校57年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校  
令和3年度4月号  
令和3年4月9日

## 涙の重さ

～「努力は必ず報われる」～

校長 今泉 正之

今年は桜の開花が早く、校舎の周りの木々に若葉がみずみずしい緑色となっています。4月8日始業式、入学式が行われ令和3年度がスタートしました。裏面の通り、3月31日をもって多くの先生方が本校を去り、新たに着任された先生方を7日の準備登校及び8日の入学式で生徒に紹介しました。そして新生172名を迎え、生徒数527名での船出となります。本年度もよろしくお願いいたします。

さて、この春休み中に日本中を感動させる出来事がありました。本当に信じられない復活を果たした競泳の池江璃花子選手の日本選手権100mバタフライで優勝です。「私は、神様は乗り越えられない試練は与えない、自分に乗り越えられない壁はないと思っています。」とつづり入院治療に入ったのが2019年2月。1か月後の3月には「思ったより、数十倍、数百倍、数千倍しんどいです。三日間以上ご飯も食べれてない日が続いてます」「でも負けたくない」という苦しい闘病生活を経て、退院した時の自筆メッセージが下です（池江選手のオフィシャルサイトより）。10か月の入院生活を経て、病気になり入院したことを前向きに捉え、高い目標を設定する姿、そしてそれから多くの報道により彼女の復活の軌跡は知らされてきました。2020年7月コロナ禍で1年延期となったオリンピック1年前イベントで「今まで当たり前だと思っていた未来は、一夜にして別世界のように変わる。それは、私も大きな病気をしたからよく分かる。人と会うこと。外を歩くこと。プールの中で全身を使って泳ぐこと。その全てが、こんなにもいとおしく、こんなにも幸せだったなんて、病気の前は気づいていなかった。」と話した彼女ほど「当たり前」の「有難さ」を知った人も少ないと思います。

2月から入院生活をし、約10ヶ月の月日が経ちこの度退院することができました。  
辛くて長い日々でしたが、皆様からの励みのメッセージを見て、早く戻りたいと強く思うことができたので、応援してくださった方や関係者の方々、そして家族には感謝の気持ちでいっぱいです。  
入院中、抗がん剤治療で吐き気が強い時や倦怠感もありましたが、そんな時はとにかく「大丈夫、大丈夫、いつか終わる」と自分に励み続けました。オリンピックは目前に控えていた中、突然大きなフェールを離れ、失ったものが9割のほどだった方もいらっしゃると思いますが、私は病気に慣れたからと分かること、考えさせられること、学ぶことが本当にたくさんあります。それが思考になる時もありましたが、まずは自分の気持ちでしっかり持たないといけないんだと思いつつ治療に励みます。  
今後の競技活動については医師と相談しながら、水中トレーニングが可能な限り次第開始します。それまでは基礎体力を身につけながら陸上トレーニングをしていく予定です。オリンピックについてはまだ、2024年の10月五輪出場、メダル獲得という目標を頑張りたいと思います。これから先も応援よろしくお願いします。

2019.12.17 池江 璃花子

そして8か月後の喜びの涙。「努力は必ず報われる。」彼女が、これを言えるまで努力した姿に感動し、プールで流した涙は、あのプール全部の水より重いと思ったのです。努力が結果として必ずしも報われるとはかぎりませんが、満足感や幸せは目標に向かって努力するから得られるのです。左のメッセージから、彼女はかきりに結果が出なかったとしても、努力し続けたことを誇りに思い、支えてくれた周囲へ感謝し、誇りを持って人生をまっとうすると思うのです。同じ活動するのでも、目標を持たずやっているのと、目標に向かって熱中するのでは、どちらが終わった時の充実感が得られるかは、はっきりしています。プールで流した彼女の涙は、目標を持って努力することの尊さ、あきらめないことの大切さを改めて教えてくれたのです。

